

概要 今、「朝活」や「街中ゆったりカフェ」という場にてコミュニケーションを楽しんでいます。そこでは、話題が趣味や生き方から仕事まで多岐にわたっています。こうした話がなぜ楽しいのか、生活に基づいた談義だからなのでしょう。そんなので、皆様と共に世相談義も含め気楽に語り合いたく存じます。本稿の構成は；

- ・コミュニケーションの意義と役割について少し
日常視点や社会的視点で
 - ・コミュニケーションをあちこちで楽しんでいます。
カフェ、朝活、職場、趣味サークル、勉強仲間、等
 - ・コミュニケーションとして生活視点で世相談義
お喋り、交流、専門、(専門家と市民、市民運動も)
- 資料：お喋り、朝活とカフェ、専門家と市民、交流

I. はじめに、

1. 目的

諸問題について生活次元でどう受け止め対処しているかを、あちこちのコミュニケーション場を覗き、声を集めると共に、これらを整理分類してテーマ毎にまとめる。

(1)なぜコミュニケーションをテーマに

- ・コミュニケーション環境が歪み ・コミュニケーションは楽しい
- ・世の中を動かすは市民、市民の声は力強い

(2)まずは

- ・健全なコミュニケーションの条件とは
- ・コミュニケーション場にて声の数々 ・生活から社会を展望

(3)着地点は

・諸問題について市民の考えがコミュニケーションとして声に現れている。これを集約し議論により皆さんと練り上げ。

2. 意義、市民視点で

(1)市民の力

市民生活でのコミュニケーションより市民感覚や市民精神を整理して、市民の潜在能力を再確認する。本稿はここまで。本稿が種々問題解決に向けた世直し市民行動に資すると思う。

(2)市民のポテンシャルは絶大。

世に現れにくいだけ→ 疎外要因の検討
気づかないだけ → 人的(繋がり)環境の検討
市民力の特徴→多様:広く浅くも、狭く深くもあり。
市民素養はコミュニケーションで常に磨かれ進化するもの。

II. 進め方

1. 進行役がサブ 題目を提示してその都度語り合い、どしどし話しを練上げ。皆さんの考え、経験・体験語り。

2. 資料説明

街中ゆったりカフェ:井戸端な語り合い、気楽に楽しく

朝活上市:語合いで知的個性的交流、面白さ満喫
お喋り会:何時でも何処でも誰とでもお喋り

III. コミュニケーション、日常談義 (臨場感漂わせて)

1. 家庭では、学校では、学校つながりでは 今回省略

2. 仕事、職場では

(1)コミュニケーション減

- ・仕事ではフランクなコミュニケーション減。職場にゆとりなし。
- ・IT利用で顔あわせることなく仕事や会議も。
→会議前後の雑談なし。会議でも幅広議論なし。
→会議も作業も目的遂行のみ。どうなのでしょう。

(2)職場での人材育成

- ・後進をどう育てますか。雑談はありますか。同輩、先輩、後輩、部下、上司にどんな話を。
仕事の意義までの談義も。どうでしょうか。

3. 地域では

(1)地域のつながり:町内では交流が減。顔合わせ機会減。地域再生が声高だが。どうなのでしょう。

(2)風土・気質も謙虚だからか

- ・郷土の良さは「当たり前、普通、たいしたことない」。
- ・「どうせ、でも、しか」の過度な身の丈思考も。
- ・最近のお祭りなど伝統が現代風にアレンジか消滅か。

(3)どこでも気楽に:道端でも車内でも出会えば会話が。

4. 飲んで、飲みコミュニケーション

(1)飲み会

- ・飲み会行ってますか。どんな話を。若い人相手なら、同輩なら、先輩なら、客相手なら。どうされています。
- ・職場懇親会:先輩は後輩に、人生論や異性話、武勇伝。上司は部下に。あたりさわりなくか。

(2)飲み会各々:職場系、同業者、甲乙関係、趣味のつながり、シルバー、地域(町内)

- ・懇親:職場の忘年会賑わず。好き者同士で。
- ・滑らかなコミュニケーションで本音も。・職場仲間では発散行為。後輩の愚痴きき。うつぶんばらし

(3)懇談会 ・深い懇談を避ける傾向

- ・異業種交流:身内同士で集まり混りあい少な。控えめと交じり熱低下。好奇心旺盛で楽しむ人もいるが。

5. 勉強はどうしてもハウツーに

(1)勉強:・参加者の姿勢は受身。・ハウツーが主は時間取れず、すぐ役立つ。必要事のみ修得→余分は不要(狭く捉えがち)。基礎からの勉強は無理。・教養力は二の次。

(2)コミュニケーションも勉強

- ・場の雰囲気読み、空気読み、気遣い強要の環境。
- ・仕事につなげるコミュニケーション力(営業、ニュース発掘)。
- ・コミュニケーションはもっとフランクに。いかがでしょう。

IV. 世相談義

0. 題目 例えば

- ・政治：民主、主権、安保、
 - ・経済：グローバリズム、地方自治：上意下達、
 - ・農業：遺伝子組み換え、農薬、大規模農業
 - ・食品：各種添加物、残留農薬
 - ・教育：個性伸ばしの教育、受験体制
 - ・地域：活性化
 - ・自然：観光のための自然破壊
 - ・技術：AI、効率
 - ・商業
 - ・意識の硬直化：保守化、消極性
 - ・情報操作
- これらを横断的かつ斜断的に再構成してみると；

1. 政治の捉え方

(1)霞む政治視点

- ・政治はかかわらずの雰囲気。別世界のことと。

(2)政治に関心示せなくなる諸要因

- ・変化望まぬ保守思考、もの言えは唇寒し、経済至上主義、理想理念欠如(考えること疲労なり)、等定着か。
- ・世の中変わらないの聲が多し。意見割れることを避け、自分の主張を抑え、アプローチを多岐にしていない。

(3)国民主権・市民主導

- ・行政を変えるには政治を変える。変えるのは市民。

2. 管理社会の管理とは

(1)ムード先行、思考不要へ

- ・管理は強圧ではなく、ムードで静かに着実に。
- ・思考そのものも管理。自由・個性も不可視な制限付。
- ・なれやあきらめによる参画意識の低下へ。
- ・思考不要社会がムード先行で加速。どうなんでしょう。

(2)かまいすぎ、過剰サービス

- ・世の中、かまいすぎ。過剰サービス。教育も、技術も。至れり尽くせりが人間のためにどの程度いいのか。

3. 常識、社会通念、倫理

- ・社会通念は何処で作られどう伝わり定着か。
- ・倫理：安心安全よりも経済性優先ということか。
- ・事故や不都合の発生には対症療法。倫理を問題せず。

4. 意識、関心、ものわかり (無関心や物分りよさ多い)

(1)積極性の減退ぎみ

- ・干渉はいや。日常に疲れ自分時間を大切に。
- ・関心を絶ち無くすとすごく楽という。

- ・楽しんで何でも出来るから消極で十分という。

(2)もの分り、組織論理染め

- ・日常で理屈いうなで会話遮断。思考遮断。
- ・組織の論理一辺倒はいかがなもの。組織人は組織論理に染まる。若い時は国民のため地域のためだったが。

(3)保守化とは。世界を広げず。世が変わらずでいい。

- ・物理的快適性、商品などによる欲望満足、小さな目的と小さな結果と小さな満足。変わらなくていい。不都合も自分に無関係ならいいと。

- ・人だけの責任ではなく、社会システムの用意周到の結果。

- ・個性や創造性重視は組織内調和のもとでは。

(4)関心をもつとは：つながらない世の中。

- ・情報化が人間の関心力を奪いぎみ。乗せられぎみ。

(5)批判精神：素直じゃないって。だんまりは美德か。

- ・自由奔放は和を乱すって。教育では批判精神を。

(6)議論を；互いにキャッチボールのコミュニケーション

「議論何れもいちゃもん」はどこにある価値観か

5. 専門家の思考

- (1)基本考：専門家は想定外と言いつつ。想定外の対処を考えず危険負担の強要か。

- ・物事を単純化するあまり重大なことの切捨てあり。
- ・人間行動や人間性を数量化して処理・判断。AIも。
- ・計算機処理に頼り結果の評価できず。思考力低下。

- (2)技術：人間の基礎能力(思考、感覚)が技術発展により鈍化へ。基礎能力の機械への置き換えが使命なのか。
- ・組織論理で技術者が働けば働くほど市民を苦しめたのが公害や災害(災害は人災なり)。

(3)市民と専門家：市民は生活者として専門家

- ・市民と交流の姿勢：地元密着ならあり。グローバリズムのもとではなし。顔の見えないなし。
- ・専門家は特別な専門能力を有して市民に尊敬される人の事。専門家は市民のパートナー(ごく少数派)

6. 市民運動

- ・安全基準につて国が国民ファーストのはずを大前提の市民。
- ・行政への対応：市民ファーストをいちゃもんとする行政は諸要件考慮を煩雑と捉えているのか。市民抗議を嫌がる。
- ・市民の聲が素朴すぎて施策にならないという行政態度。素朴な声を肉付けするのが専門家や行政の仕事。

V. おわりに

いかがでしたでしょうか。コミュニケーションは構えず気楽に、声が町中に(職場でも)こだませたいです。あわせて、特に個性・批判精神をもって健全な生活をおくりたいものです。そこから未来への展望をごく自然体で描きたいですね。